あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2024年12月
vol.15

振り返りレポート
／企画展「弥生時代の食事情」
／「青谷弥生人ミュージアムキャラバン」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「石包丁づくり」他
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイルNo.14「赤彩土器」
図書紹介／「清洲町史」他
学芸員がお答えするQ&Aコーナー
／朝日遺跡の銅鐸について教えてください。
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介／「円窓付土器」
古代体験プログラムのお知らせ
9月～11月のできごと
企画展「あいちの発掘調査2024」開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム

企画展展示風景

振り返りレポート

企画展　弥生時代の食事情

期間 2024年10月19日(土)～12月15日(日)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

弥生時代の食生活はどのようなものだったのでしょう。本企画展では、出土した動植物や、それらを獲得する道具を紹介するとともに、弥生土器を対象とした、圧痕レプリカ分析、ススコゲ等の使用痕分析、残存脂質分析等の最新の科学分析から見えてきた弥生時代の食の実態について紹介しました。

弥生の食材

最初は朝日遺跡から出土した炭化米、貝層の貝、魚骨、動物や鳥の骨、そしてこれらを獲得するのに使われた収穫具、漁労具、狩猟具等の道具を展示し、弥生時代の人々が米以外にも様々な動植物を食物として利用していたことを紹介しました。

朝日遺跡の食材

土器の圧痕

土器作りの過程で粘土の中に混入した植物の種実などが、焼成時に焼け落ちて空洞になり小さな穴（圧痕）が残されます。この圧痕にシリコン樹脂を流し込み作成したレプリカを電子顕微鏡（SEM）で観察する圧痕レプリカ分析をとりあげました。穀物としてはイネだけでなくアワ、キビなどより小さな種実の存在も確認でき、縄文時代晩期から弥生時代にかけて、これらの穀物がどのように定着していったかが明らかになってきました。

ススコゲから探る調理法

煮炊きなど調理に用いられた土器の外面には、薪が燃えて付着したススや熱による変色、表面の剥落などの痕跡が、内面には内容物が炭化して表面に付着したコゲなどが残されています。これらのススコゲのつき方を、民族資料や実験と比較することによって明らかになった、「湯取り法」という弥生時代のコメの炊飯方法を紹介しました。

残存脂質分析

これは、調理などにより土器胎土に浸透した脂質（油脂、ワックス、タールなどの非水溶性の物質）を抽出し分析することで、その土器でどのような有機物を調理、加工したのかを明らかにしようとする分析手法です。企画展では、朝日遺跡の分析結果とともに、科学的な分析がどのように行われているのか、分析を解説する映像、パネルと分析に用いられる器具と分析手順を再現して展示しました。このコーナーは残存脂質分析を推進している奈良文化財研究所国際遺跡研究室の協力のもと実現しました。

残存脂質分析に用いる器具

ポスター展示

展示室前の廊下では、本企画展とも関連する最新の科学分析、民族・考古学的研究により、東アジアや中央アジアのイネ、雑穀、ムギ農耕の実態解明を目指した研究プロジェクト【中国文明起源】計画研究B02「植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容」ポスター展示を開催しました。

ポスター展示

分析科学を中心に紹介した本展示は、出土品そのものを観賞するこれまでの展示とは少々趣が異なったものになったかもしれません。様々な手法によるアプローチが、考古学の研究に新しい風を吹き込んでいることを知っていただけたなら幸いです。

（原田　幹）

企画展チラシ

青谷弥生人ミュージアムキャラバン
「弥生の少年がやって来た!」

期間 2024年9月21日(土)～10月14日(月・祝)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

2022年度秋に開催した青谷弥生人ミュージアムキャラバンの第二弾を開催することができました。本展示は鳥取県が主催し、弥生時代の「地下の弥生博物館」とも呼ばれる青谷上寺地（あおやかみじち）遺跡を紹介する展示です。

今回の展示の目玉は、「青谷上寺朗（かみじろう）」に続く二体目の弥生人復顔像「青谷来渡（らいと）」です。1800年前の倭国乱の時代を青谷上寺朗とともに生きた少年の復顔像が、鳥取県外で初めて披露されました。また、同遺跡の主な出土品とともに、昨年度実施された最新調査の出土品（人骨、木製品、銅鏃など）も展示され、3週間と短い期間でしたが、見応えのある展示会となりました。

展示期間中には、講座2回、展示解説などもあり、今年3月にオープンしたばかりの青谷かみじち史跡公園のPRも行われました。同じ弥生時代をテーマとする施設として、今後もいろいろな形で連携を図っていきたいと思います。

（原田　幹）

復顔像「青谷来渡」

展示解説の様子

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

ボランティア「おもてなしムラ人」と共に弥生時代の稲作を体験。
この秋は、石包丁づくり、稲刈り、そして脱穀を行いました。

石包丁づくり

2024年9月21日(土)

カットしたスレート板をレンガで研磨して、石包丁をつくりました。参加した皆さんは、自分の理想の石包丁の形に近づけるため、一心不乱に磨いていました！最後にひもを通したら、マイ石包丁の完成。11月の「収穫体験」では、この石包丁を使ってお米を収穫します。

収穫体験

2024年11月2日(土)

あいにくの天気となりましたが、雨が止むタイミングを見計らって、屋外の体験水田で収穫体験を行いました。石包丁を使って、弥生時代の稲刈りを実際に体験！参加した皆さんは、徐々に石包丁の使い方のコツを掴んでいき、雨も時間も忘れるくらい集中して稲刈りをしていました。

脱穀体験

2024年11月17日(日)

体験水田で収穫した稲穂から、お米を1粒ずつ取り外す「脱穀体験」を、「収穫祭」のイベントの1つとして実施しました。弥生時代（臼と杵）、江戸時代（千把扱き）、明治時代（足踏み式脱穀機）と、それぞれの時代の脱穀方法を体験してもらいました。

シリーズ　ミュージアム収蔵品ファイル No.14

赤彩土器

朝日遺跡の出土品の中でもひときわ目を引くのが、赤く彩色された赤彩土器です。この土器は、「パレス・スタイル土器」とも呼ばれています。弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、尾張地域を中心に流行し、やがて初期の古墳とともに、全国へと広がっていきました。

パレス・スタイル土器には次のような特徴があります。

・赤い顔料を塗布した赤彩帯。壺の場合は、口縁内面、口縁外面、体部下半に赤彩を施すものが多くみられます。

・白っぽい地肌の上に配置された緻密な文様帯。壺では、体部上半、口縁内面の外側に文様が施されます。

・赤色が施される部分と地肌の白さを残す部分が交互に配置され、赤と白のコントラストが強調されています。

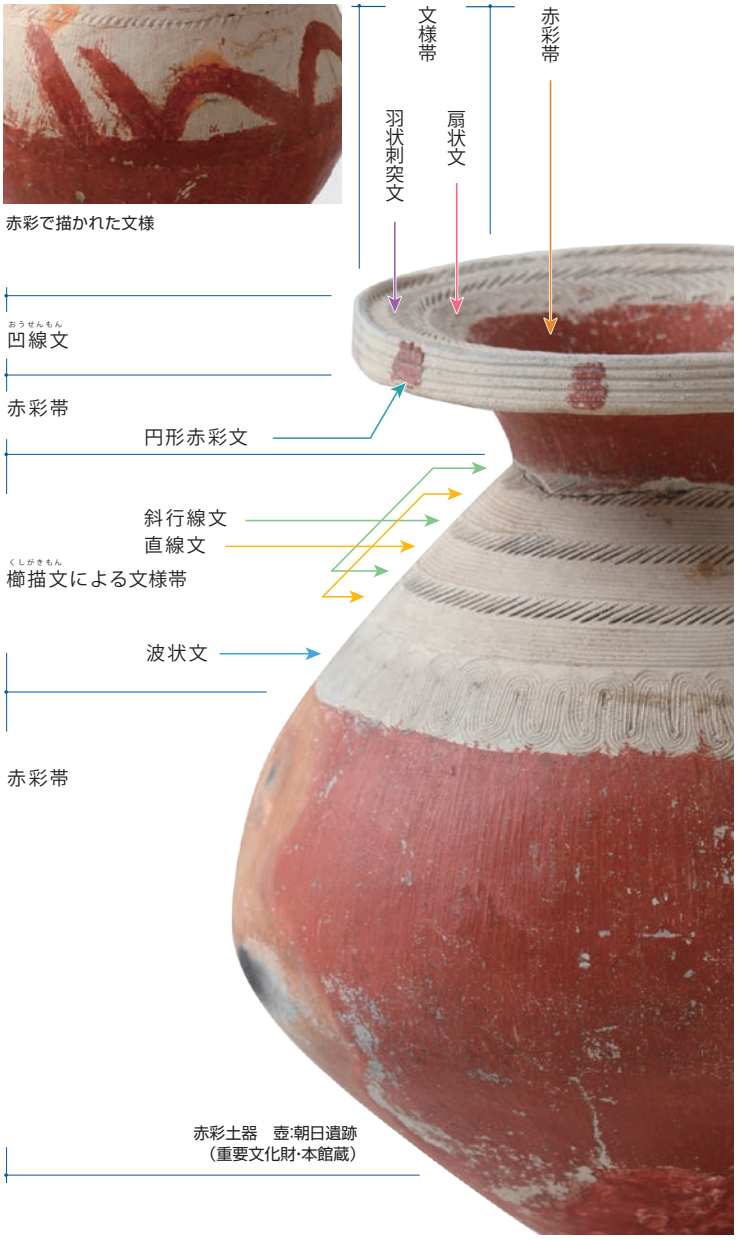
鮮やかな赤色に目が行きがちですが、緻密な櫛描文（くしがきもん）もパレス・スタイル土器の魅力のひとつです。体部上半は、直線文と波状文・斜行線文・山形文などを組み合わせて装飾されます。大きく広がる口縁には、羽状（うじょう）の刺突文などの文様を施しています。この文様パターンは、時期によっても変化していきました。

また、通常赤彩は、一定の範囲を塗りつぶすように塗布されますが、まれにそれ自体を文様のように描いたものも見られます。斑点、勾玉（まがたま）（滴）のような形を配置したもの、あるいは筆のようなもので躍動的な曲線を一気に描いたものもあります。

赤彩土器は日常使いの土器ではなく、特別な儀式、祭礼、あるいは墓地での葬送に用いられた特殊な土器だったと考えられています。弥生時代の人々は、美しく装飾した赤彩土器にどのような祈りを捧げたのでしょう。

（原田　幹）

赤彩土器：朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）



赤彩土器　壺:朝日遺跡
（重要文化財・本館蔵）

図書紹介

当ミュージアムの蔵書は、あいち朝日遺跡ミュージアムの前身である“清洲貝殻山貝塚資料館”の頃から集められた図書です。その数約8,500冊！一般書店では手に入らない調査報告書や全国の博物館で刊行された図録など見どころが満載です。
そんな自慢の蔵書からスタッフおすすめの図書を2冊紹介します。

『清洲町史』　清洲町史編さん委員会　1969年11月発行

多くの自治体から出版されている、地域の歴史や自然環境について記載されている市町村史をご存じですか？旧清洲町も昭和44年に出版しています。「清洲町史」は現在の清須市清洲地区について記された本です。清須村の地名が1352年の古文書に姿を現したというところから、清洲城築城について、織田家による尾張における道路開発の事業についてなど、日本の歴史上において清洲が重要な位置であったことが、わかりやすい文章で書かれています。歴史好きな方はもちろん、他の土地から転入された方には清須の歴史を知る機会になると思います。
史跡貝殻山貝塚交流館に配架されています。ぜひ、ご覧ください。

『清須学講座テキスト』　清須市　2007年3月発行

この冊子は、平成28年度に開講した清須学講座のテキスト用に作成されたものです。清須市について「朝日遺跡」「清須城・城下町」「美濃路」の歴史的地域資源、「現代」についての4章にわたって記されています。この冊子は非売品なので、入手することは出来ませんが、ミュージアムの本館図書コーナーにてこのテキストで学んでいただくと、より、清須市に愛着を抱くのではないでしょうか。

学芸員がお答えする Q&A コーナー

ミュージアムでいただくご質問の中から、たくさんの方の「気になる」に学芸員がお答えします。

Q 朝日遺跡の銅鐸について教えてください。

A みなさんは、朝日遺跡の銅鐸というと、写真①の銅鐸を思い浮かべると思います。これは、「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へと次第に大型化する過渡期のもので、吊手部分の形態から「突線鈕式（とつせんちゅう）」に分類されています。吊手部分は、最初は丈夫な厚手のものですが、「見る銅鐸」へと大型化するにつれて、薄手で装飾性のある幅広のものへと変わっていきます。

さらに①の他にも銅鐸が存在したことは、2点の飾耳から推測できます。飾耳は、銅鐸の中でも比較的新しい形態につけられます。飾耳には渦巻文が施されており、2点で大きさが異なることから、これらの飾耳は①の銅鐸よりも新しい近畿式銅鐸のものであり、かつ別個体のものであることがわかります。

ここまでで3点の銅鐸があったことは確定です。ただし、関連遺物として、石製の銅鐸の鋳型と銅鐸型土製品もあります。

銅鐸を制作する際には、鋳型に銅と錫の合金（青銅）を高温で溶かしたものを流し込み、冷え固まったあとにできた銅鐸を鋳型からはずします。鋳型は石製から土製へと変化することがわかっており、また鋳型に残った文様から、朝日遺跡の銅鐸の鋳型は、一番古い形態である「菱環鈕式（りょうかんちゅう）」に分類されます。鋳型はありますが、実際に銅鐸はあったのでしょうか。そしてもう1つ、銅鐸型土製品、まるで見て描いたかのように文様が細かいと思いませんか？さあ、朝日遺跡では全部でいくつ銅鐸が作られていたのでしょうか…

①銅鐸

②飾耳

（松本　彩）

連載（シリーズ15）

ミュージアムスタッフのこぼれ話

弥生体験ムラの運営

学芸員の松本です。私は4月に育児休業から復帰し、学芸課で勤務しています。現在担当している仕事は多岐に渡りますが、その1つとして、体験ムラ人（当館体験ボランティア）と一緒に体験弥生ムラ（体験水田・竪穴住居・方形周溝墓など）の運営に携わっています。

内容としては、当ミュージアムの体験水田のイネの水やりや除草などの管理、水田で行われる田植えや収穫などのイベント、それから数年前から栽培しているアワ・キビ・ヒエなどを育てている畑のお世話などです。イベントやその他環境整備等で、毎週土曜日はほとんどミュージアムに出勤しています。水田については、ムラ人さん含めいろいろな人に教えてもらい、日々勉強しながら、イネを育てています。

ところで、この夏の猛暑にはかなりヒヤヒヤしました。新聞やニュースにも稲の生育状況が芳しくない、とありましたが、当館ではスタッフ全員の頑張り（水やり）もあり、なんとか今年度も収穫してご飯を食べられそうです。

今後は、カゴ作りや染色など、米作りだけでなく、弥生時代のムラで行われていた様々な暮らしの体験を提供できるよう頑張っていきます。（今年度試行中あるいは試行予定のものもいくつかあります。）もしかしたら体験イベントが途中で増えているかもしれませんので、チラシだけでなく、HPもこまめにチェックしてみてください！

体験弥生ムラでのイベントなどを通して、地域に密着した気軽に立ち寄れるミュージアムを目指し、また母親目線からも子どもたちにとって身近なミュージアムになるよう頑張りたいと思います。

（松本　彩）

体験水田での田植えの様子

畑でのアワ・キビ・ヒエの収穫

ショップグッズ蘊蓄（うんちく）紹介「円窓付（まるまどつき）土器」

弥生時代の土器は、穀物や水を貯蔵するための「壺（つぼ）」、調理用として火にかける「甕（かめ）」、食物を盛付するための「高坏（たかつき）」の3種類が基本の形とされています。円窓付土器は、このうち壺の胴部に、人の拳が入る程の大きさの円形の孔を開けた形となっています。貯蔵目的の容器に孔を開けてしまうと、当然ながら本来の目的には適さないという謎の存在で、様々な説があるものの、結局その用途はよくわからないという土器です。

今回紹介するグッズは、この円窓付土器をモデルにキャンドルスタンドとして作りましたが、もちろん使い方は自由です。見えない筈の空間が、そっと覗けてしまうという不思議な壺として、机上に、季節を感じる癒しの小宇宙を演出してみてはいかがでしょうか。

ドングリとムラサキシキブの実

円窓付土器
￥4,000（税込）

古代体験プログラムのお知らせ　土・日・祝開催　会場：本館・体験学習室

1月

教材費 50円　各回先着 10人　時間 15:00～(60分)

アンギン編みでコースターづくり

古代の方法で布を織ります。

作例

2月

教材費 800円　各回先着 10人　時間 15:00～(60分)

土人形づくり

オーブン陶土を使って土人形をつくります。ミュージアムで焼成まで行い、展示します。

作例

3月

教材費 800円　各回先着 10人　時間 15:00～(60分)

赤彩土器づくり

ベンガラを使って土器に赤色の文様を施した「赤彩土器」を作成します。

作例

※2025年1月4日（土）から3月30日（日）までの土・日・祝日に開催（各1回）　※当日ミュージアム本館窓口にてお申し込みください。（事前予約はできません）

9月～11月のできごと

イベント

「朝日遺跡にドナルドがやってくる！」

●日時：2024年9月28日（土）
①午前10時45分から午後0時10分まで
②午後1時40分から午後2時40分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　屋外（体験学習室前）
●内容：屋外にて、朝日遺跡クイズ、ドナルドのキャラクターショーやダンス、トークショー、また清須市立図書館による絵本の読み聞かせなど、様々なイベントを実施しました。

清洲城・信長まつり関連イベント「土器拓本づくり」

●日時：2024年10月13日（日）
①午前10時から正午まで　②午後1時から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：清洲城で開催された「清洲城・信長まつり」のサテライト会場として、「土器拓本づくり」を実施しました。朝日遺跡にて実際に出土した弥生土器の欠片を初めて手に取る方も多く、貴重な経験ができたと皆さん喜んでいました。

「収穫祭」

●日時：2024年11月17日（日）
午前10時から午後4時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：ミュージアム敷地内の体験水田で収穫した稲を様々な道具で脱穀する「脱穀体験」や、学芸員による「企画展みどころガイド」などのイベントを実施しました。

「朝日遺跡弥生ウィーク」（「あいち県民の日」連携事業）

●日時：2024年11月21日（木）から
11月27日（水）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
本館（研修室、基本展示室）
●内容：11月27日（水）の「あいち県民の日」を含む1週間「あいちウィーク」期間中、「土器拓本づくり」、「勾玉アクセサリーづくり」「遺跡ミュージアムを巡るガイドツアー」を実施しました。期間中は、多くのお客様にご来館いただきました。

講座

「青谷上寺地遺跡出土人骨の研究 －港湾集落に集いし人びと－」

●講師：濵田竜彦氏（鳥取県立青谷かみじち史跡公園　課長補佐）
●日時：2024年9月21日（土）午前10時から午前11時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：弥生時代に日本海沿岸地域を代表する港湾集落として賑わっていた青谷上寺地遺跡。この遺跡にどのような人々が集い、暮らしていたのか。紀元2世紀に埋まった溝から発見された大量の人骨から見えてきた集団像、社会的環境に関する新たな知見を紹介しました。

「第20次発掘調査の最新速報」

●講師：門脇隆志氏（鳥取県立青谷かみじち史跡公園　文化財主事）
●日時：2024年10月14日（月・祝）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館(研修室)
●内容：2022年度から2023年度に鳥取県が実施した青谷上寺地遺跡の第20次発掘調査では、約600点の人骨が出土し、多数の人骨が見つかった謎を解明する手がかりとなりそうな事実が判明しつつあります。最新の調査成果をお知らせするとともに、大量に出土した魚骨、動物骨に基づく漁労や家畜に関する研究成果について解説しました。

講演会

「「朝日弥生鍋」をのぞいてみよう」

●講師：庄田慎矢氏（奈良文化財研究所・国際遺跡研究室長）
●日時：2024年10月27日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：朝日遺跡から出土した土器100点以上を対象に、土器の胎土に遺された微細な有機物の分析を通して、当時土器の中に何が入っていたのか、そしてそれが土器の形や時代によってどう変わったのかを探りました。

講座ヒストリーカフェ

「朝日遺跡、土器を巡る最近の話題」

●講師：原田幹（当ミュージアム館長）
●日時：2024年11月9日（土）午後1時30分から午後2時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：研究者は土器をどのように見ているのか。企画展で取り上げている土器の圧痕レプリカ分析、ススやコゲなどの使用痕分析、残存脂質分析など、最新の研究方法とその成果について、実際に土器を観察しながら考えてみました。

企画展 「あいちの発掘調査2024」開催のお知らせ

会期：2025年1月18日（土）～3月9日（日）

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。

今年も、県内各地で実施された最新の発掘調査による出土品や調査成果を紹介するとともに、展示で紹介する遺跡の調査担当者による報告会などを開催し、県内の考古学の最新情報をわかりやすくお伝えします。

会期中には、講演会「デザインの時間軸－安城市亀塚遺跡と赤彩竪櫛」（会場：清洲市民センター）も開催します。

みなさんのご来場をお待ちしております。

企画展チラシ

朝日遺跡だより vol.15
令和6年12月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

区分	一般	大学生・高校生（学生証のご提示が必要です）
個人	300円	200円
団体（有料20名以上）	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL／052-409-1467
- 開館時間／9：30～17：00
- 駐車場／15台
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）及び年末年始（12/28～1/3）

戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから清洲城まで徒歩約10分

入館料

【大人】400円
【小人】200円（小中学生）※幼児無料

- 愛知県清須市朝日城屋敷1－1
- TEL／052-409-7330
- 開館時間／9：00～16：30
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット
2施設で計700円を 550円 発券より半年間有効

古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料

【一般】200円
※中学生以下無料

- 名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- TEL／052-739-0520
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を 400円 発券より半年間有効

大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

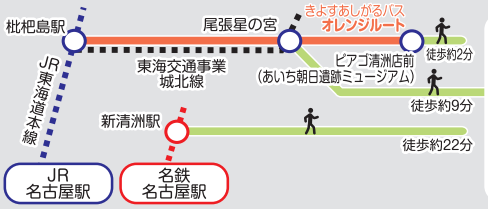
共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

https://aichi-asahi.jp/ SNSもご覧ください

あなたに夢を、街に元気を。 クーちゃん宝くじ